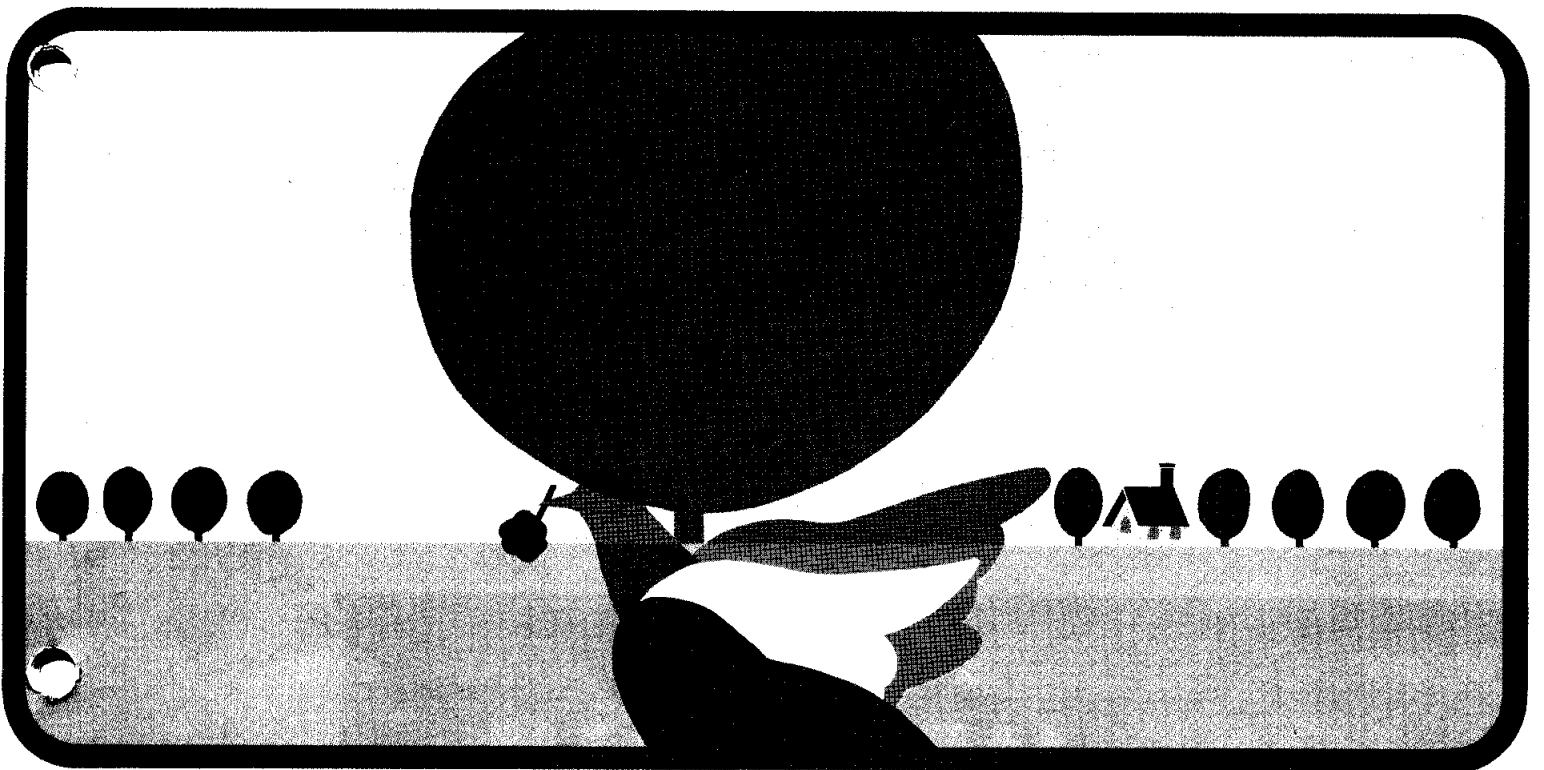


YAMAHA ELECTONE®

FC-20 / FC-10



取扱説明書

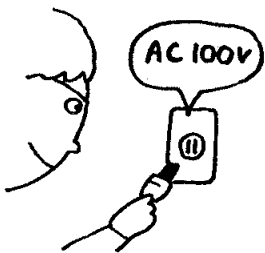
このたびはヤマハエレクトーンを
お買上げいただきまして
ありがとうございます。

エレクトーンFC-シリーズは、楽器づくりの経験ゆたかなヤマハが、時代の最先端をいく電子テクノロジーをふんだんにとりいれて完成させた最新型のエレクトーンです。特に、ヤマハが独自に開発したデジタル技術によって実現した「自然で生き生きとした音」「豊かな響き」は、どなたにもご満足いただけると思います。さらに、楽器は初めてという方でも手軽に楽しめる数々の機能をとりいれていますので、ご家族全員でご愛用いただけます。

演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみいただくため、あらかじめこの説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは大切に保管し、分からないことが生じたときにもう一度ご覧になってください。きっとお役に立ちます。

ご使用上の注意

必ず、AC100Vのコンセントから電源を。



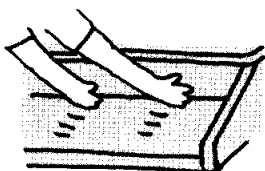
大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがああります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。

電源プラグの扱いに注意。



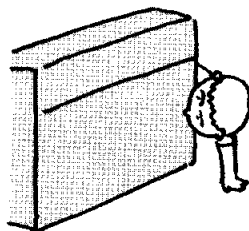
ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。

スライドぶた、譜面板の取扱いについて。



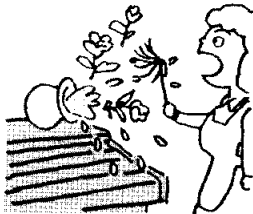
スライドぶたを開けるときは、手前を少し持ち上げ、手に持ったまま静かに押し込みます。指や物を巻き込まないように注意してください。また、スライドぶたの上には重い物を乗せないでください。譜面板を上げ下げするときも、しっかりと持ち、手をはさまないように気をつけてください。

エレクトーンの内には、絶対ふれないで。



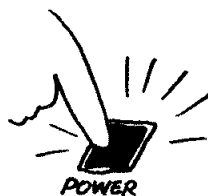
エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

内部に水が入った場合は。



誤って水などをかけ、エレクトーンの内に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

電源スイッチを切り忘れないように。



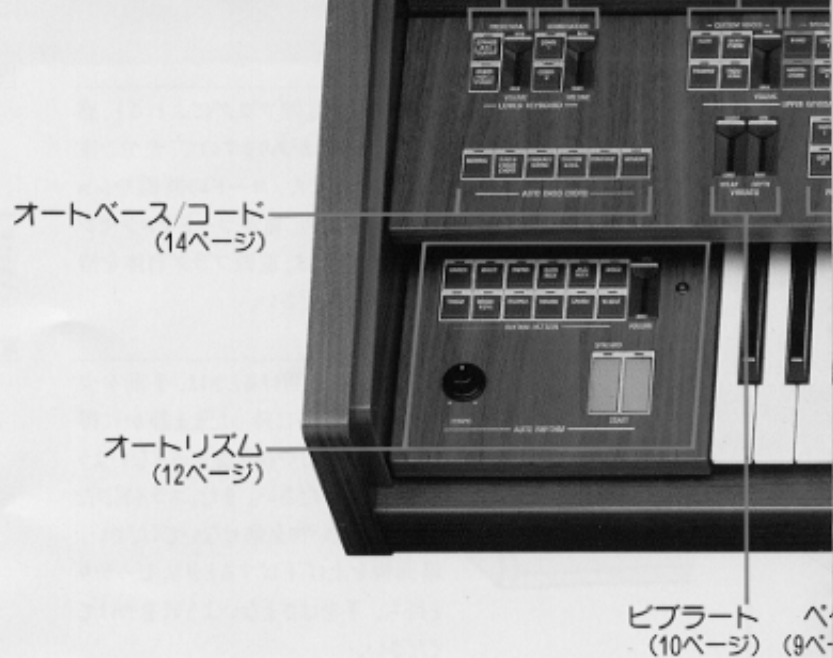
電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

各部の名称

FC-20



FC-10





マスターボリューム
(3ページ)

電源スイッチ
(3ページ)

サステイン
(11ページ)

パイロットランプ
(3ページ)

ス
ジ) アップースペシャルプリセット/コンビネーション/オーケストラ
(4・5ページ)



マスターボリューム
(3ページ)

電源スイッチ
(3ページ)

パイロットランプ
(3ページ)

ル
ジ) マニュアルバランス
(10ページ)

サステイン
(11ページ)

1	演奏をはじめる前に	エレクトーンの各部のやくわり……………2 まず音をだしてみよう……………3
2	上鍵盤の音色	コンビネーション/オーケストラ……………4 スペシャルプリセット……………5 カスタムボイス……………6
3	音色を組み合わせて みましょう	アンサンブル(FC-20のみ)……………7
4	下鍵盤の音色	コンビネーション・オーケストラ……………8
5	ペダル鍵盤の音色	ペダル……………9
6	音に表情をつけて 豊かな響きに(効果)	ビブラート・マニュアルバランス……………10 サステイン……………11
7	リズムを 加えてみましょう	オートリズム……………12
8	自動伴奏を 楽しみましょう	オートベース/コード……………14
9	アルペジオ(分散和音) 伴奏も楽しめます (FC-20のみ)	オートアルペジオ……………18

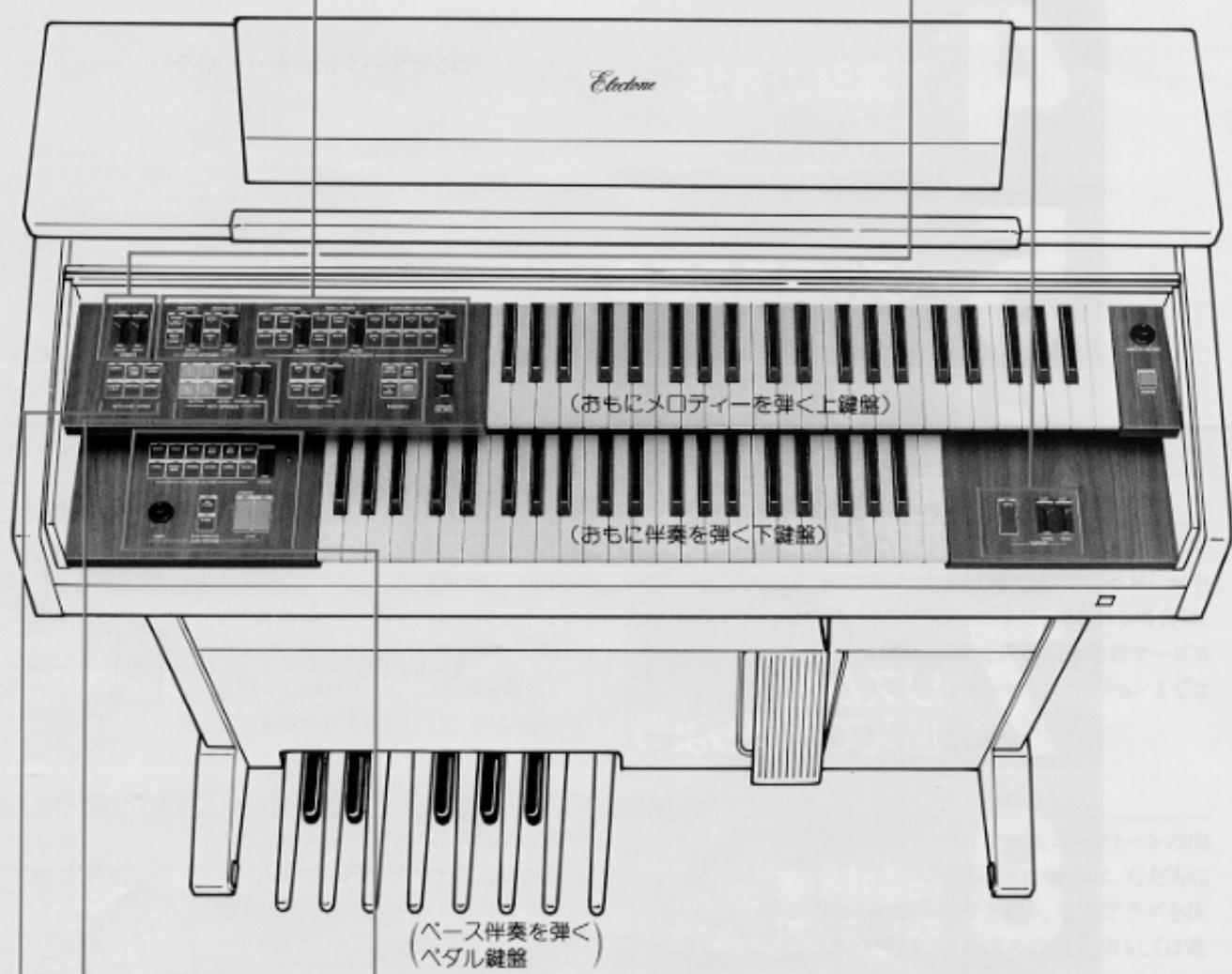
本文中の図と説明は、
FC-20を例にしています。

- 付属端子と音楽を楽しむエチケット……………20
- 末永く安全にお使いいただくために……………21
- エレクトーン教室のご案内……………22
- 仕様と音域表……………23
- 故障とお考えになる前に……………24
- サービスと保証について……………26
- エレクトーン豆知識……………28

1. 演奏をはじめる前に エレクトーン各部分のやくわり

音色をセットします。

音に表情をつけて
豊かな響きにします。



(おもにメロディーを弾く上鍵盤)

(おもに伴奏を弾く下鍵盤)

(ベース伴奏を弾く)
ペダル鍵盤

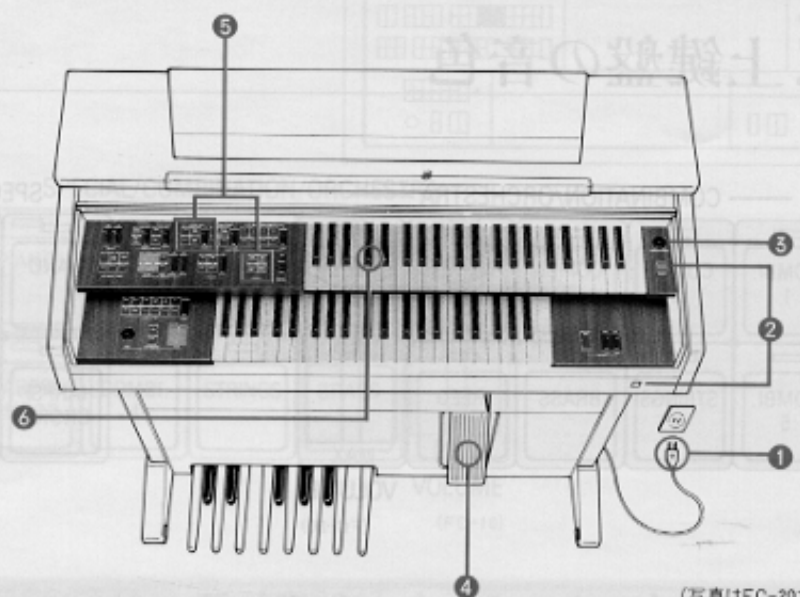
アルペジオ伴奏が
加わります。

(写真はFC-20です。)

自動伴奏ができます。 リズムを加えます。

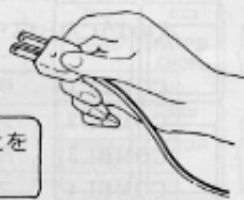
楽しさをひろげます。

まず音をだしてみましょう



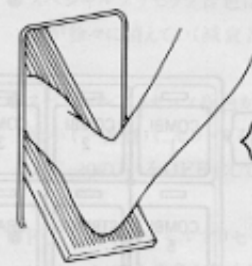
(写真はFC-20です。)

1 電源プラグをコンセントにさしこむ。



AC100Vであることを確認してください。

4 エクスプレッションペダルを踏みこむ。



右足で操作。

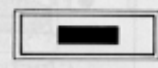
これもエレクトーン全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱をつけることができます。

2 電源スイッチを入れる。

電源を入れると、パイロットランプが点灯します。



POWER



3 マスターボリューム(総合音量)のつまみをセット。



MASTER VOLUME

中央ぐらいにセット。

このつまみでエレクトーン全体の音量が調節できます。

5 音色をセット。

ここでは、カスタムボイスのフルート音色をセットしてみましょう。



- CUSTOM VOICES -

VOLUME

FC-20では、アンサンブルのボタンも入れる。

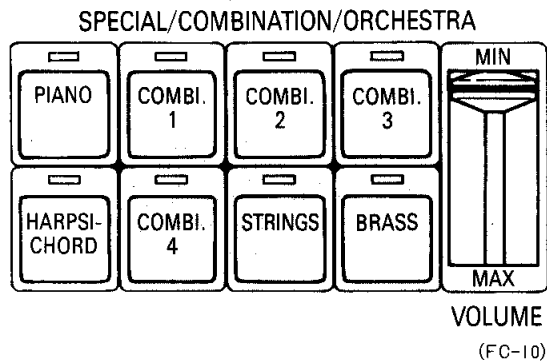
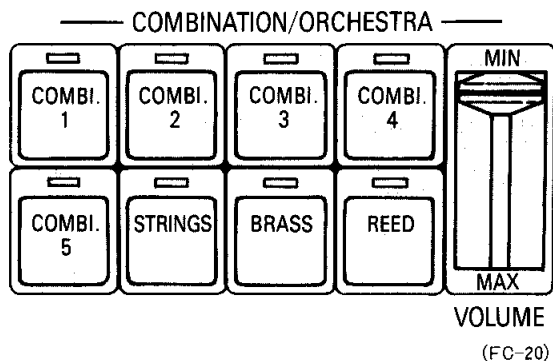
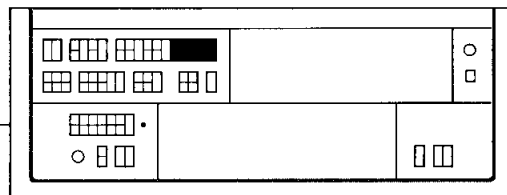


ENSEMBLE

6 上鍵盤を弾いてみましょう。

音がでてきましたね。それでは次のページから各部の使い方をひとつひとつみていきましょう。

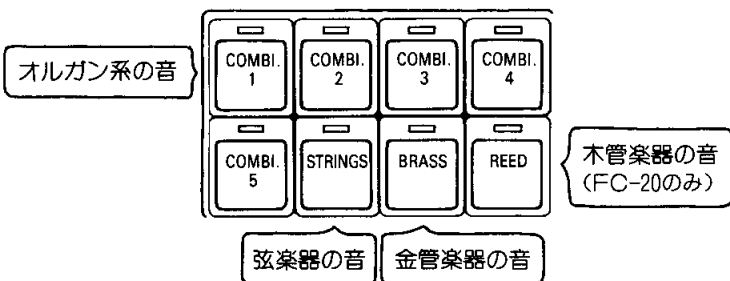
2. 上鍵盤の音色



コンビネーション/オーケストラ

オルガン系の音や弦楽器、金管楽器の音などが選べます。

1 音色をひとつ選ぶ。



次のステップへ進みましょう

〔コンビネーションの音色〕

コンビネーションのボタンを選ぶと、いろいろなオルガン系の音がでてきます。それぞれの音色は、次のようになっています。

COMBI. 1	明るいフルート系サウンド
COMBI. 2	シンプルなフルート系サウンド
COMBI. 3	厚みのあるオルガンサウンド
COMBI. 4	フルオルガンサウンド
COMBI. 5	重厚なフルート系サウンド

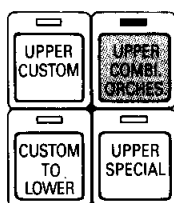
※COMBI.5はFC-20のみ。

2 音量をセット。



奥にセットすると音量は小さくなり、手前にセットするほど音量は大きくなります。

3 FC-20では、アンサンブルのボタンを入れる。



ENSEMBLE

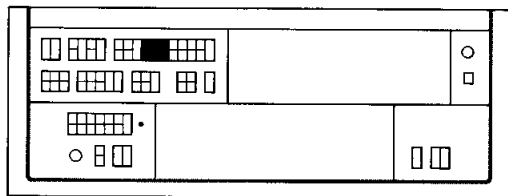
4 上鍵盤を弾いてみましょう。

ほかの音色を選んで聴きくらべてください。

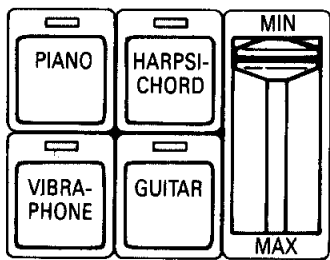
●コンビネーション/オーケストラ音色は、鍵盤をおさえている間、音がでつづける持続音です。

●コンビネーション/オーケストラ音色が必要でないときは、音量を最小(一番奥)にセットするか、アンサンブルのボタン(FC-20のみ)をOFFにしてください。

●FC-10のコンビネーション/オーケストラ音色は、スペシャルプリセット音色も含めたなかからひとつ選ぶようになっています。

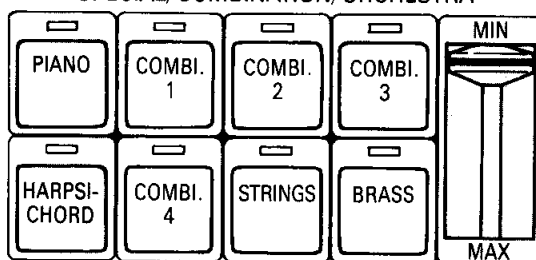


— SPECIAL PRESETS —



VOLUME
(FC-20)

SPECIAL/COMBINATION/ORCHESTRA

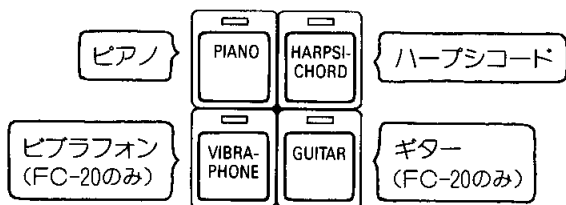


VOLUME
(FC-10)

スペシャルプリセット

ピアノやハーブシコードなどの音色が選べます。

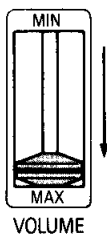
1) 音色をひとつ選ぶ。



次のステップへ進みましょう

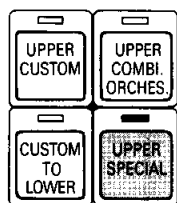
- スペシャルプリセット音色は、鍵盤をおさえつづけても音が徐々に消えていく減衰音です。
- スペシャルプリセット音色が必要でないときは、音量を最小(一番奥)にセットするか、アンサンプルのボタン(FC-20のみ)をOFFにしてください。
- FC-10のスペシャルプリセット音色は、コンビネーション/オーケストラ音色も含めたなかからひとつ選ぶようになっています。

2) 音量をセット。



奥にセットすると音量は小さくなり、手前にセットするほど音量は大きくなります。

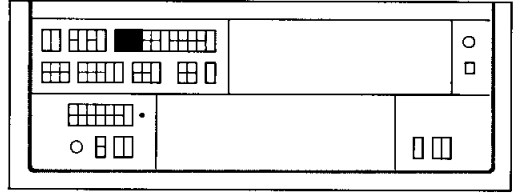
3) FC-20では、アンサンプルのボタンを入れる。



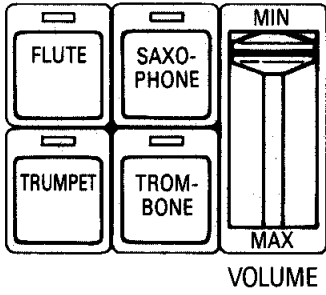
ENSEMBLE

4) 上鍵盤を弾いてみましょう。

ほかの音色を選んで聴きくらべてください。



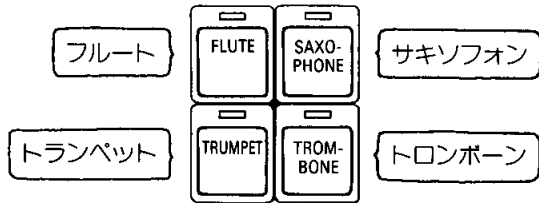
— CUSTOM VOICES —



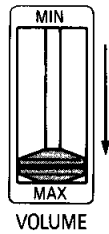
カスタムボイス

フルート、サクソフォン、トロンボーンなどの音が単音で得られます。

1 音色をひとつ選ぶ。

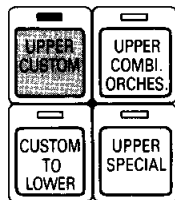


2 音量をセット。



奥にセットすると音量は小さくなり、手前にセットするほど音量は大きくなります。

3 FC-20では、アンサンブルのボタンを入れる。



ENSEMBLE

4 上鍵盤を弾いてみましょう。

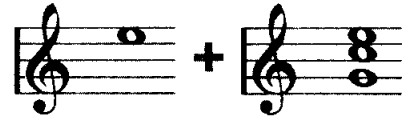
ほかの音色を選んで聴きくらべてください。

次のステップへ進みましょう

〔カスタムボイスは単音です〕

ほかの音色グループとちがいで、カスタムボイスでは鍵盤をいくつか同時におさえると一番高い音だけがでできます。

(例)



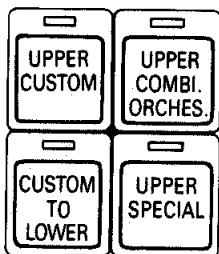
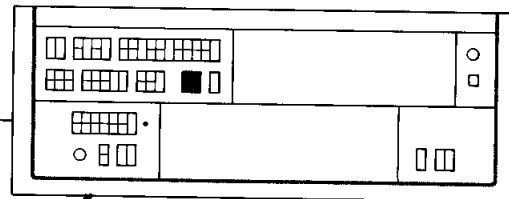
カスタムボイスの音

ほかの音色グループの音

ほかの音色グループの音と組み合わせてブロック奏をすれば、最高音のメロディーラインだけにカスタムボイスの音が重なり、立体的なサウンドが楽しめます。

- FC-20では、カスタムボイスの音色を下鍵盤から出すことができます。(次のページを参照)
- カスタムボイス音色が必要でないときは、音量を最小(一番奥)にセットするか、アンサンブルのボタン(FC-20のみ)をOFFにしてください。
- FC-10のカスタムボイス音色は、スペシャルプリセットまたはコンビネーション/オーケストラの音色と組み合わせることができます。(次のページを参照)

3. 音色を組み合わせてみましょう



ENSEMBLE (FC-20)

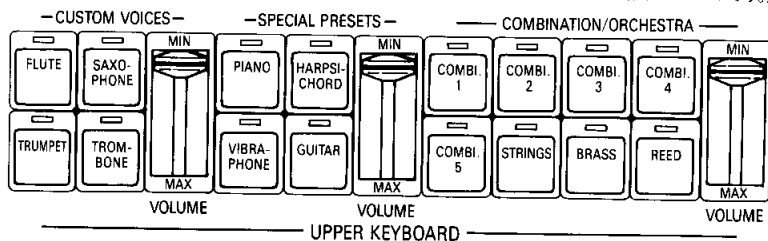
アンサンブル

FC-20では、アンサンブルのボタンを2つ以上入れると、上鍵盤の音色を組み合わせてすることができます。

上鍵盤の音色を組み合わせてみましょう。

1 組み合わせたい音色を選ぶ。

(図はFC-20です。)

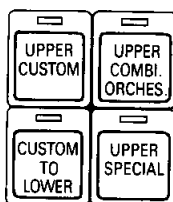


各音色のグループで、それぞれ音色を選んでください。

(FC-10では、カスタムボイスをひとつと、そのほかの音色をひとつ選んでください。)

2 FC-20では、アンサンブルのボタンで音色を組み合わせる。

カスタムボイスのスイッチ。



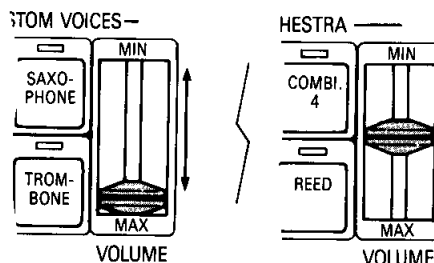
コンビネーション/オーケストラのスイッチ。

カスタムボイスが下鍵盤に移ります。

スペシャルプリセットのスイッチ。

ENSEMBLE

3 上鍵盤を弾きながら、それぞれの音量を調節する。



音量をそれぞれセットし、組み合わせた音色のバランスをコントロールします。

いろいろな音色の組み合わせをためてみましょう。

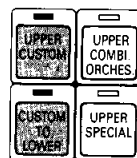
次のステップへ進みましょう

[音色のチェンジが素早くできます]

アンサンブル(FC-20)では、上鍵盤の音色のON/OFFを一か所で集中的にコントロールすることができます。使い方に慣れたら、演奏の切れ目で音色の組み合わせ方を変えてみましょう。

[カスタムボイスを下鍵盤からだしてみましょう(FC-20のみ)]

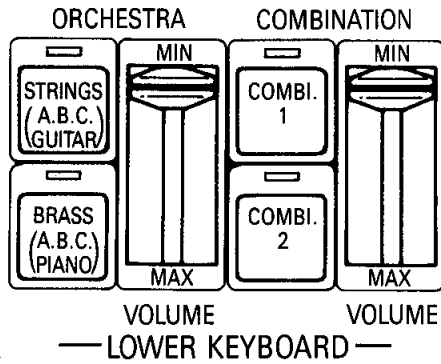
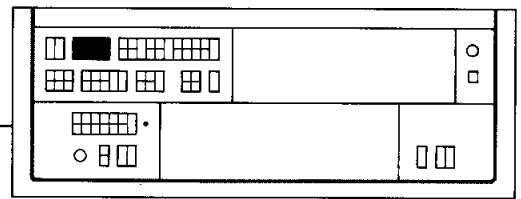
- ① カスタムボイスの音色をひとつ選ぶ。
- ② 音量をセット。
- ③ アンサンブルのボタンを2つ入れる。



ENSEMBLE

- ④ 下鍵盤を弾くと、カスタムボイスの音色がでてきます。
- FC-20のカスタムボイスを下鍵盤に移しているときは、上鍵盤でカスタムボイスの音色をだすことはできません。
- FC-20のカスタムボイスを下鍵盤に移すと、UPPER COMBI. ORCHES.のボタンが自動的にONになります。(UPPER COMBI. ORCHES.とUPPER SPECIALのボタンをどちらもOFFにしていたとき)
- アンサンブルのボタンがすべて入っていない場合は、UPPER COMBI. ORCHES.のボタンがONになります。

4. 下鍵盤の音色

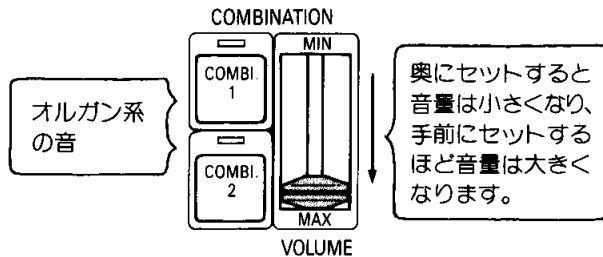


コンビネーション・オーケストラ

コンビネーションではオルガン系の音色、オーケストラでは弦楽器や金管楽器の音が選べます。

コンビネーションの音色をだしてみましよう。

1 音色をひとつ選び、音量をセット。

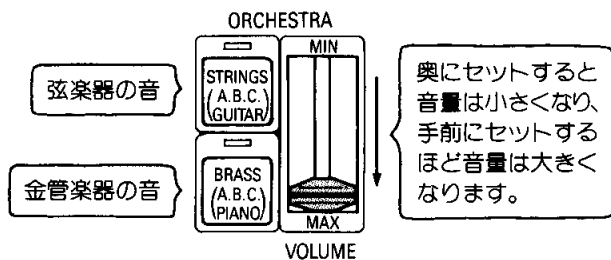


2 下鍵盤を弾いてみましょう。

もうひとつの音色を選んで聴きくらべてください。

オーケストラの音色をだしてみましよう。

1 音色をひとつ選び、音量をセット。



2 下鍵盤を弾いてみましょう。

もうひとつの音色を選んで聴きくらべてください。

次のステップへ進みましょう

〔下鍵盤の音色の組み合わせ方〕

コンビネーションとオーケストラの組み合わせ：それぞれの音色をひとつずつ選び、音量をセットするだけで組み合わせることができます。

カスタムボイスと下鍵盤の音色との組み合わせ (FC-20のみ)：カスタムボイスをアンサンブルのボタンで下鍵盤に移せば、下鍵盤のコンビネーション、オーケストラと組み合わせることができます。(7ページを参照)

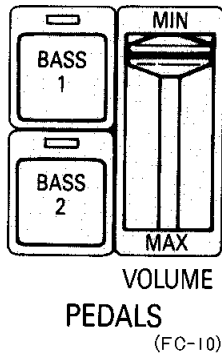
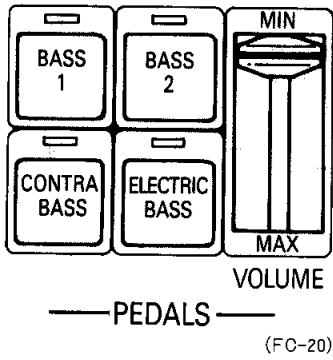
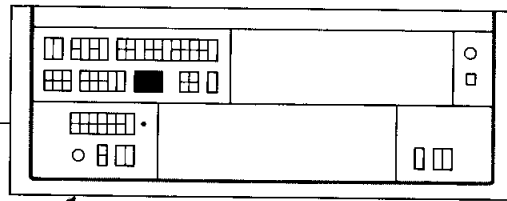
〔コンビネーションの音色〕

COMBI. 1	シンプルなフルート系サウンド
COMBI. 2	フルート・クラリネットサウンド

●自動伴奏を使うとオーケストラの音色が変わります：オートベース/コードとオートリズムをセットして自動伴奏をしているときは、ストリングスがギター音色に、ブラスがピアノの音色にそれぞれ切りかわります。(14ページを参照)

●下鍵盤のコンビネーションまたはオーケストラの音色が必要でないときは、音量を最小(一番奥)にセットしてください。

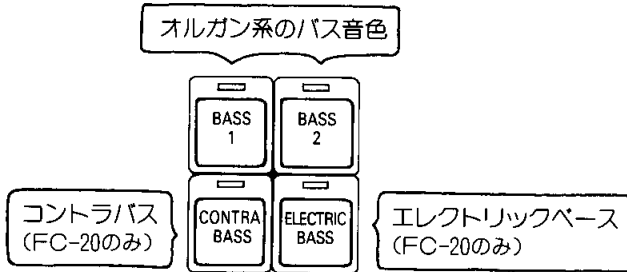
5. ペダル鍵盤の音色



ペダル

いろいろなベースの音が選べます。

1 音色をひとつ選ぶ。

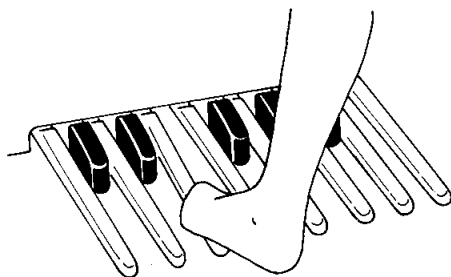


2 音量をセット。



奥にセットすると音量は小さくなり、手前にセットするほど音量は大きくなります。

3 ペダル鍵盤を弾いてみましょう。



ほかの音色を選んで聴きくらべてください。

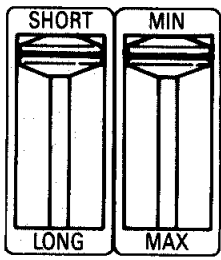
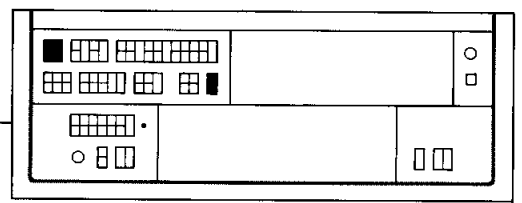
次のステップへ進みましょう

[ペダル鍵盤の音は単音です]

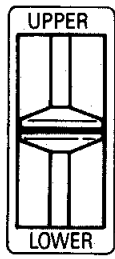
ペダル鍵盤は左足で演奏するため、同時に複数の音はでないようになっています。同時にいくつかの鍵盤を踏むと、そのうち一番高い音が1音でできます。

- オートベース/コードを使えば、ペダル鍵盤を弾かなくても自動的にベース伴奏ができます。(くわしくは14ページを参照)
- オルガン系のバス1・2は持続音、コントラバスとエレクトリックベースは減衰音です。

6. 音に表情をつけて豊かな響きに(効果)



DELAY DEPTH
VIBRATO



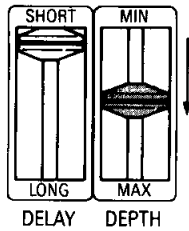
MANUAL
BALANCE

ビブラート

音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせます。

まず、普通のビブラートを上鍵盤と下鍵盤の音にかけてみましょう。

1 デプスを
手前にセット。



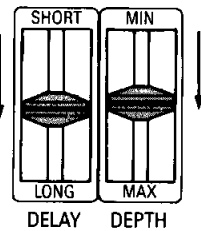
手前に引くほど音のふるえ方が大きくなります。

2 鍵盤を弾くと、音がこきざみにふるえます。

上鍵盤の音にディレイビブラートをかけてみましょう。

1 ディレイを
手前にセット。

手前に引くほどビブラートがかかりはじめるまでの時間が長くなります。



デプスも必ずセット。

2 上鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤をおさえてから、少しおくらせて音がふるえはじめます。

次のステップへ進みましょう

● デレイとデプスのレバーの動きを図で示すと以下のようになります。



● デレイビブラートでは、ディレイのレバーをセットするだけではビブラートはかかりません。デプスのレバーも必ずセットしてください。

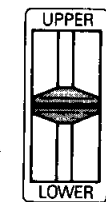
● 上・下鍵盤を同時に弾いているとき、ディレイビブラートをセットすると、下鍵盤の音にも上鍵盤と同じタイミングでディレイビブラートがかかります。

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをコントロールします。

音量のバランスを
コントロール。

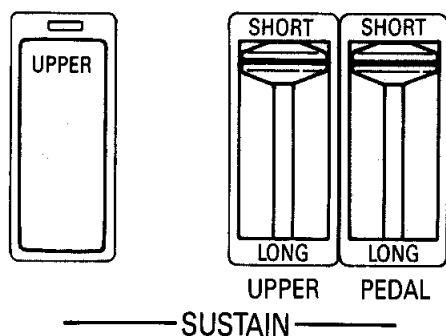
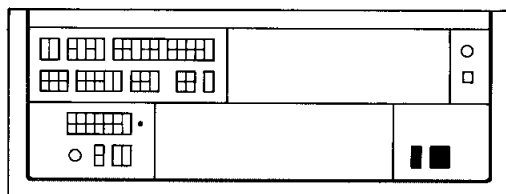
手前にセットすると、下鍵盤の音量が上鍵盤の音量に比べ大きくなります。



MANUAL
BALANCE

奥にセットすると、上鍵盤の音量が下鍵盤の音量に比べ大きくなります。

● 普通は、中央よりややアッパーよりにセットします。



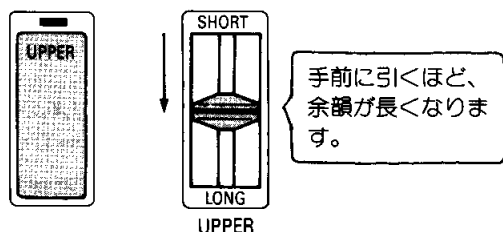
サステイン

鍵盤から指や足をはなしたあと、音に自然な余韻をつけます。

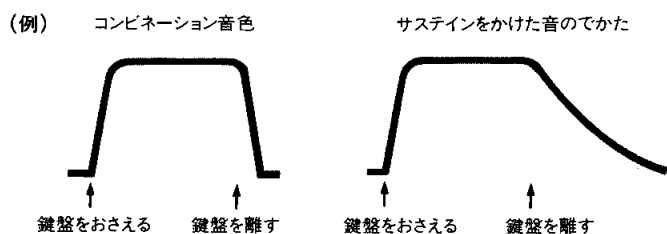
上鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

1 上鍵盤のコンビネーション/オーケストラ、スペシャルプリセットの音色をセット。

2 アッパーのボタンを入れ、レバーを手前にセット。

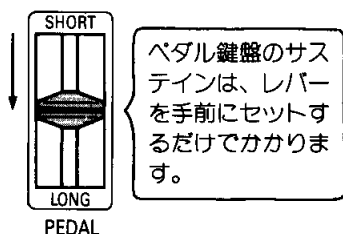


3 上鍵盤から指をはなすと、音に余韻がつきます。



ペダル鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

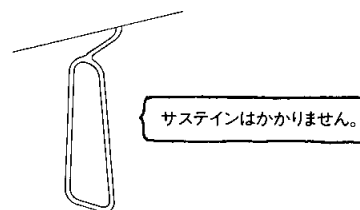
レバーを手前にセット。



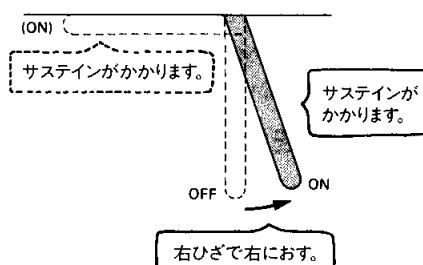
次のステップへ進みましょう

[ニーレバーでサステインをかけてみましょう]

- ① 上鍵盤の音色をセット。
- ② アッパーのボタンとレバーをセット。
- ③ ニーレバーを立て、演奏を始める。

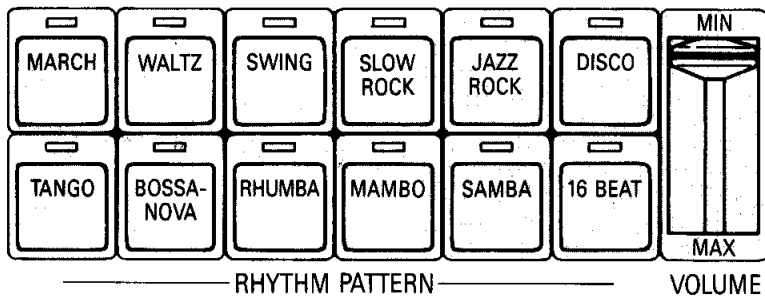


- ④ 演奏中にサステインをかけたいところになったら、ニーレバーを右におす。



- ペダル鍵盤のサステイン効果は、ニーレバーでコントロールすることはできません。
- スペシャルプリセットの音色にかかるサステインの長さは一定にセットされています。レバーで余韻の長さをコントロールすることはできません。(FC-20では、アンサンブルのUPPER COMBI. ORCHES.のボタンがOFFのとき)
- FC-20では、アンサンブルのUPPER COMBI. ORCHES.とUPPER SPECIALのボタンを両方もONにしているときは、スペシャルプリセット音色にかかるサステインの長さもレバーでコントロールすることができます。
- カスタムボイスの音色には、サステインがかかりません。

7. リズムを加えてみましょう

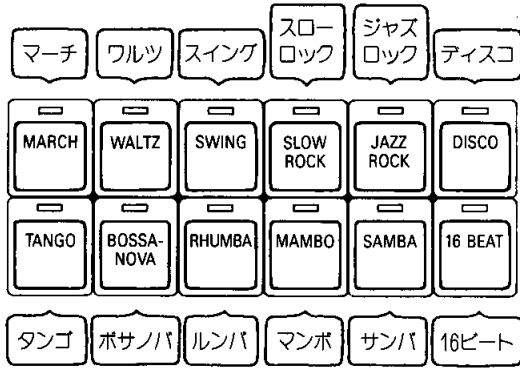


オートリズム

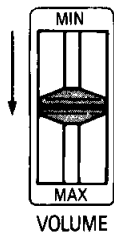
いろいろな打楽器の音で自動的にリズムがでています。

まず、リズムをスタートさせてみましょう。

1 リズムパターンをひとつ選ぶ。

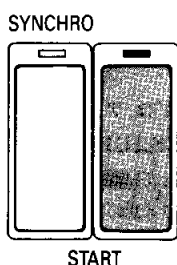


2 音量をセット。



手前に引くほどリズムの音量が大きくなります。

3 スタートのボタン(右側)を入れる。



ほかのリズムパターンを選んで聴きくらべてみましょう。

ボタンをONするとリズムがスタート。もう一度おすとストップします。

次のステップへ進みましょう

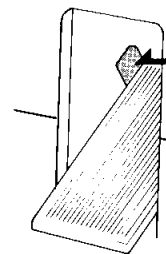
[リズムパターンの組み合わせ]

上段のボタンを2つ以上、または下段のボタンを2つ以上同時にONすると、リズムパターンを組み合わせることができます。ただし、上段のリズムパターンと下段のリズムパターンを組み合わせることはできません。

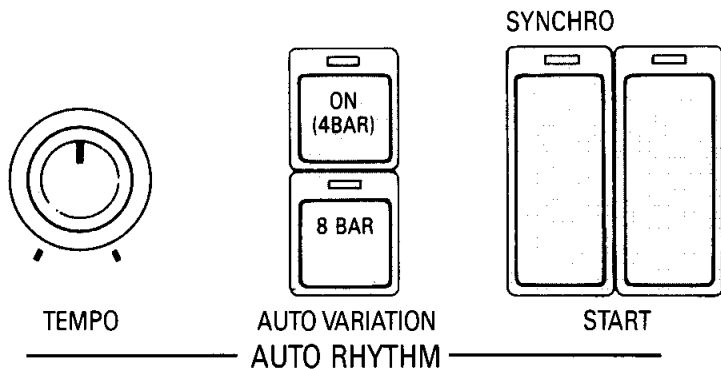
● スタートのボタンは、伴奏より先にリズムをスタートさせたいときなどにお使いください。

[フットスイッチでリズムをストップさせてみましょう(FC-20のみ)]

エクスプレッションペダルの左横にあるフットスイッチを使って、リズムをストップさせることもできます。リズムがスタートしているとき、このスイッチを左におすとリズムが止まり、もう一度おせば再びスタートします。



1度おすと、リズムがストップ。もう1度おすと、リズムが再スタートします。

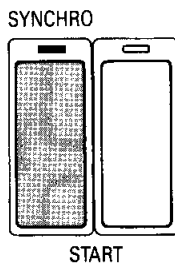


(図はFC-20です。)

リズムと伴奏を同時にスタートさせてみましょう。

4 シンクロスタートのボタンを入れ、下鍵盤をおさえる。

下鍵盤（またはペダル鍵盤）をおさえると同時にリズムがスタートします。



リズムの速さをコントロールしてみましょう。

5 テンポのつまみをセット。

右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。



TEMPO

リズムに一定の変化をつけてみましょう。(FC-20のみ)

オートバリエーションのボタンを入れる。

4小節目ごとにリズムパターンが変化します。



AUTO VARIATION

2つとも入れると、8小節目ごとにリズムパターンが変化します。



AUTO VARIATION

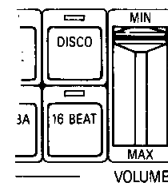
次のステップへ進みましょう

- シンクロスタートは、オートベース/コードやオートアルペジオ(FC-20のみ)を使って伴奏するときに使うと便利です。伴奏とリズムが同時にスタートするため、タイミングが取りやすくなります。(14、18ページを参照。)

[テンポランプ]

リズムがスタートしているとき：リズムの小節の1拍目ごとに点滅しますから、リズムと演奏のタイミングを合わせるのに便利です。

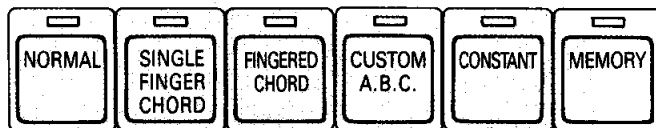
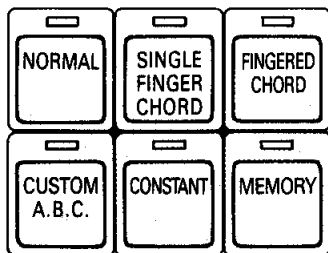
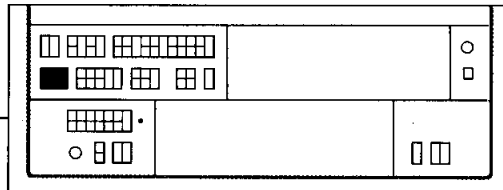
シンクロスタートをONし、まだリズムをスタートさせていないとき：4分音符の単位で点滅しますから、演奏開始前にリズムのテンポが目でも確認できます。



●——テンポランプ

- オートバリエーションによって変化するパターンは、選んだリズムパターンによって異なります。

8. 自動伴奏を楽しみましょう



AUTO BASS CHORD (FC-20)

AUTO BASS CHORD (FC-10)

オートベース/コード

下鍵盤とペダル鍵盤の伴奏が自動的にできます。上達に合わせて、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA. B. C. と3つの使い方ができます。

指1本で自動伴奏[シングルフィンガーコード]

次のステップへ進みましょう

1 シングルフィンガーコードのボタンを入れる。

一番やさしい自動伴奏。

ノーマルは、自動伴奏を使わないときにON。

[オートリズムを使わない場合は]
 下鍵盤の音：自動的に和音になります。(オーケストラ音色はストリングスとプラスになります)
 ペダル鍵盤の音：下鍵盤でおさえた音をもとに、1音が自動的に選ばれます。

- 下鍵盤のコンビネーション音色もセットしてみましょう。持続音の和音伴奏としてできます。
- シングルフィンガーコードを使っているときは、FC-20のカスタムボイス音色を下鍵盤から出すことはできません。
- シンクロスタートを使えば、自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。

2 和音伴奏の音として、下鍵盤のオーケストラの音色をひとつ選ぶ。

ギター
音になります。

ピアノ
音になります。

ORCHESTRA

STRINGS (A.B.C.) (GUITAR)

BRASS (A.B.C.) (PIANO)

VOLUME

MIN

MAX

3 ベース伴奏の音色をセット。

音色をひとつ選ぶ。

(図はFC-20です。)

BASS 1

BASS 2

CONTRA BASS

ELECTRIC BASS

MIN

MAX

PEDALS

4 オートリズムをセット。

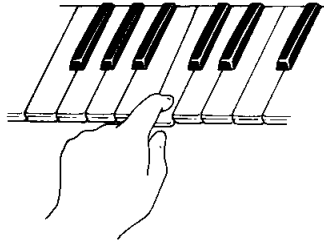
リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。(12、13ページを参照)

シンクロスタートのボタンを入れておきましょう。

SYNCHRO

START

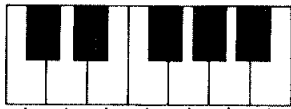
5 下鍵盤をひとつおさえてみましょう。



リズムに合わせて和音伴奏とベース伴奏が自動的にでてきます。

〔下鍵盤と和音伴奏の関係〕

コードネームが書かれている楽譜で、Cのところはドを、Gのところはソをおさえます。



下鍵盤でおさえる位置

C	D	E	F	G	A	B
ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ
ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ
ソ	ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ

コードネーム

でてくる和音
(メジャーコード)

いろいろな和音(コード)をだしてみよう。

〔メジャーコード〕

(例) C



下鍵盤をひとつおさえる。(上の図を参照)

〔マイナーコード〕

(例) Am



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の黒鍵を同時におさえる。

〔セブンスコード〕

(例) G7



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の白鍵を同時におさえる。

〔マイナーセブンスコード〕

(例) Gm7



メジャーコードでおさえた鍵盤と、それより左側の黒鍵と白鍵を同時におさえる。

次のステップへ進みましょう

〔シングルフィンガーコードによる自動伴奏〕

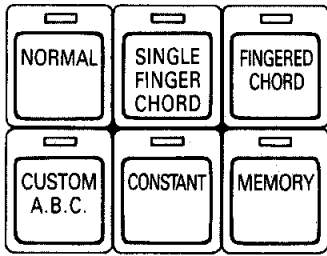
下鍵盤の和音伴奏：下鍵盤でおさえた音を根音とする和音がでてきます。そのうち、ローオーケストラ音色はリズムに連動し、ローコンビネーション音色は持続してでてきます。

ペダル鍵盤のベース伴奏：下鍵盤で検出された和音をもとにして、自動伴奏されます。

●シングルフィンガーコードでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、でてくる自動伴奏の音域は変わりません。

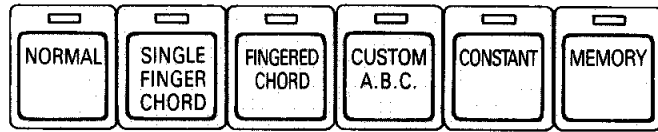
●下鍵盤を2つ以上おさえてマイナーコードやセブンスコードなどをだしているとき、レガートに弾いてコードを変えると、コードが正しく変わらない場合があります。コードを変えるときに、鍵盤からいったん指をはなすようにしてください。

●リズムがオートバリエーション(FC-20のみ)に切りかわっている間は、ローオーケストラの伴奏パターンも変化します。



AUTO BASS CHORD

(FC-20)



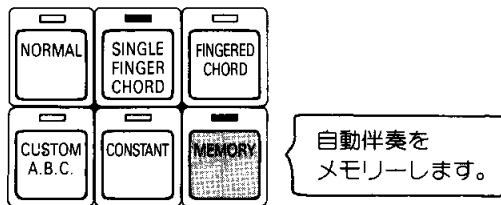
AUTO BASS CHORD

(FC-10)

オートベース/コード

鍵盤をはなしても自動伴奏がつづきます。

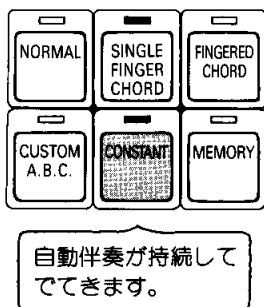
メモリーのボタンを入れ、下鍵盤をおさえる。



下鍵盤から指をはなしてみましよう。自動伴奏がリズムと一緒に鳴りつづけます。

リズムと自動伴奏を切りはなすこともできます。

CONSTANTのボタンを入れ、下鍵盤をおさえる。



次のステップへ進みましょう

〔自動伴奏を使わないときでも、メモリーは使えます〕

メモリーは、オートリズムに連動して働きます。したがって、ノーマルのボタンをONして自動伴奏をキャンセルしても、リズムさえスタートしていれば、下鍵盤の音をメモリーすることができます。

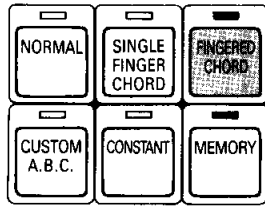
〔CONSTANTの使い方〕

CONSTANTのボタンを入れると、下鍵盤のオーケストラ音色による和音伴奏と、ペダル鍵盤のベース伴奏は、リズムに連動しなくなります。(オートリズムを使わないときの自動伴奏と同じベタ弾きの伴奏。)伴奏をベタ弾きの音にして、オートリズムも使いたいときに、このCONSTANTのボタンを入れてください。なお、次に説明するフィンガードコード、カスタムA.B.C.とも一緒に使うことができます。

和音をおさえて自動伴奏〔フィンガードコード〕

1 フィンガードコードのボタンを入れる。

おさえたとおりの和音で自動伴奏。



メモリーのボタンも使えます。

2 下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセット。

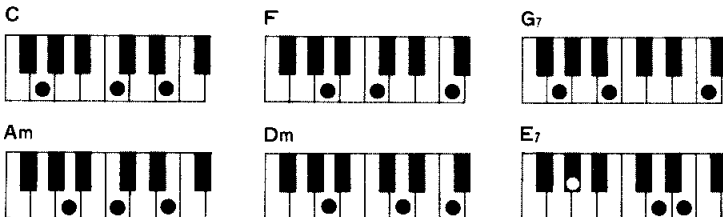
3 オートリズムをセット。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。シンクロスタートを入れると自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。(12、13ページを参照)

4 下鍵盤でいろいろな和音をおさえてみましょう。

リズムに合わせて、和音伴奏とベース伴奏が自動的にできます。おさえたとおりの和音で自動伴奏されますから、さまざまな種類のコードで演奏ができます。

〔コードのおさえ方の例〕

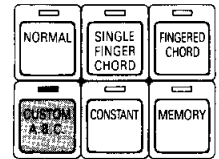


次のステップへ進みましょう

〔カスタムA.B.C.〕

下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をたすこともできます。

- 1 カスタムA.B.C.のボタンをON。
(メモリーのボタンも使えます。)



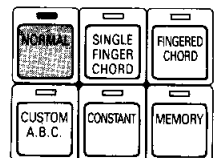
- 2 下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセット。
- 3 オートリズムをセット。
- 4 下鍵盤でコードをおさえ、ペダル鍵盤を1音おさえる。
- 5 和音伴奏：下鍵盤でおさえたコードがそのままできます。

ベース伴奏：ペダル鍵盤でおさえた音にもとづいて、リズムに連動したパターンが自動的にでています。

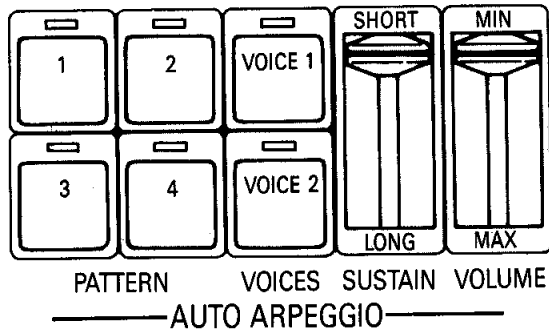
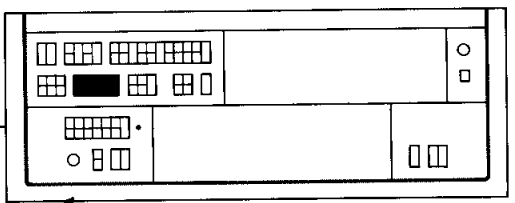
ペダル鍵盤でおさえる音は、コードの根音以外の音でも任意に選べますから、より変化に富んだ自動伴奏が可能です。

〔ノーマル〕

ノーマルのボタンをONすると、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.がキャンセルされます。



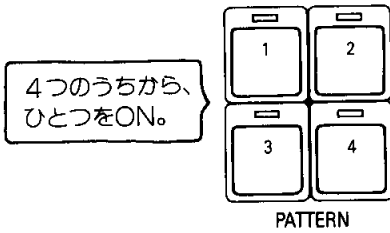
9. アルペジオ(分散和音)伴奏も楽しめます (FC-20のみ)



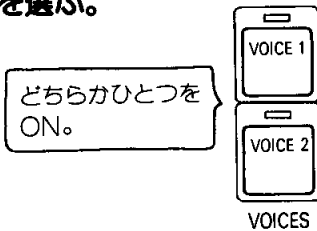
オートアルペジオ

リズムに合わせて、華やかな分散和音が自動的にでてきます。

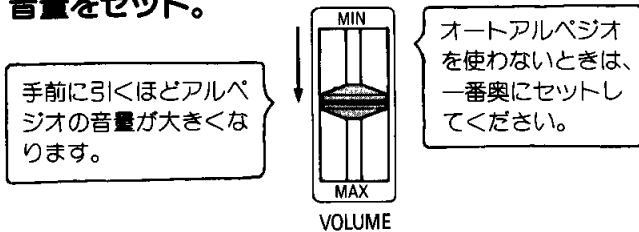
1 アルペジオのパターンを選ぶ。



2 音色を選ぶ。

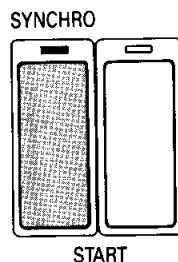


3 音量をセット。



4 オートリズムをセットし、シンクロスタートを入れる。

リズムパターンを選び、ボリューム、テンポなどをセットしてください。



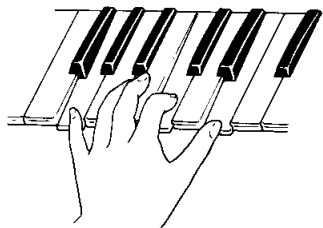
次のステップへ進みましょう

[オートアルペジオの音色]

オートアルペジオには2つの音色があり、ボイス2はボイス1より1オクターブ音程が高い音色です。また、ボイス1とボイス2のボタンを両方ともONすれば、音色を組み合わせることができます。

- オートアルペジオはリズムに連動していますから、必ずオートリズムをセットしてください。
- オートアルペジオのパターンは、選んだリズムパターンによって異なります。

5 下鍵盤をおさえてみましょう。



おさえた音をもとにして、分散和音がリズムに合わせてでできます。

ほかのアルペジオパターンやリズムパターンを選んで聴きくらべてください。

アルペジオの音をなめらかな感じにしてみましょう。

サステインのレバーをセット。

手前に引くほどアルペジオがなめらかになります。

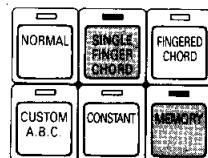


奥にセットすると、歯切れのよいアルペジオになります。

次のステップへ進みましょう

[オートベース/コードと一緒に使ってみましょう]
オートベース/コードと一緒に使えば、自動的に和音伴奏ができ、その和音をもとにしてアルペジオがでできます。(14~17ページを参照)

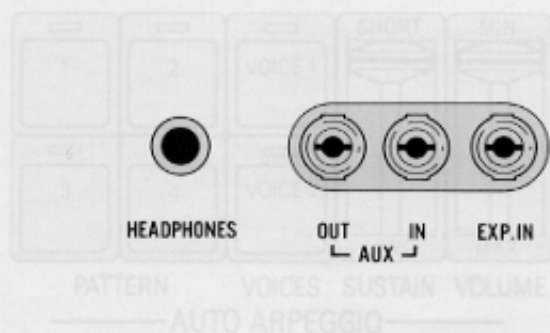
自動的にでてくる和音をもとにしてアルペジオがでできます。



下鍵盤から指をはなしたあとも、アルペジオ伴奏がつづきます。

付属端子と音楽を楽しむエチケット

(FC-20のみ)



付属端子

● HEADPHONES (ヘッドホン端子)

ヘッドホンを接続する端子で、ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます(本体からでる音はモノラルです)。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。[インピーダンス390Ω]

● AUX, OUT (ライン出力端子)

アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テーブデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[インピーダンス470Ω]

● AUX, IN (ライン入力端子)

ステレオやテーブの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード・テーブの音に合わせて演奏することができます。[インピーダンス23 KΩ]

● EXP, IN (エクスプレッション連動入力端子)

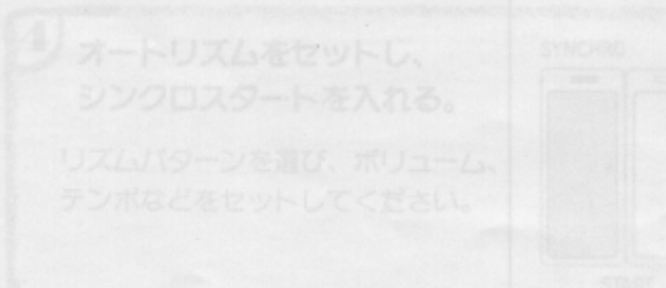
シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。[インピーダンス10 KΩ]

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。



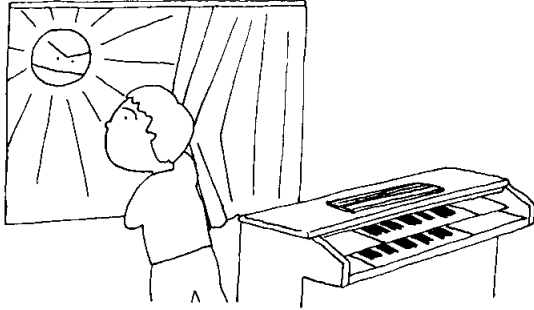
電子楽器専用ヘッドホン(別売)
HP-50A(モノラル)・HP-50S(ステレオ)



末永く安全にお使いいただくために

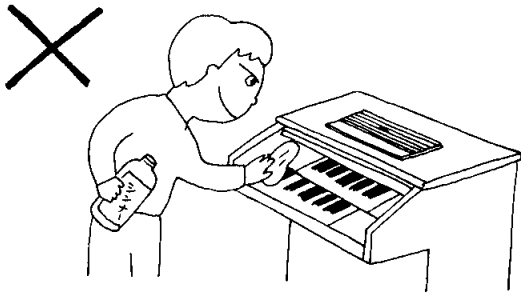
設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



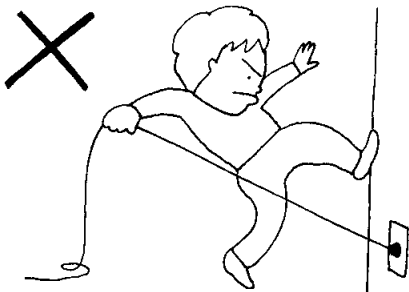
外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。



電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

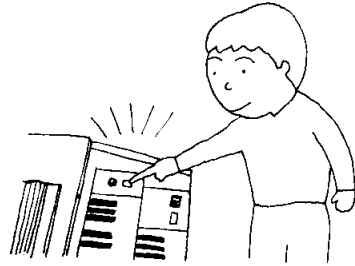
- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子、譜面板などの取扱いでは、キズをつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

トーンキャビネットなどを接続する場合、20ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

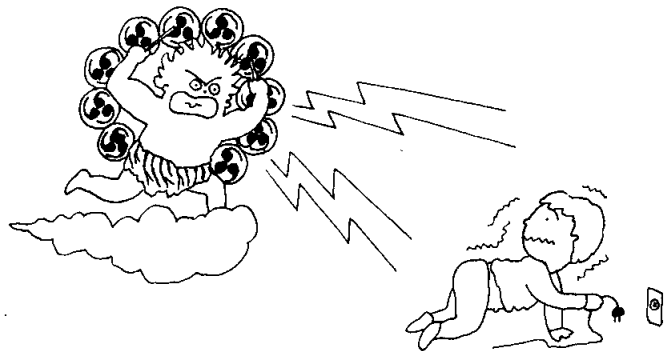


他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



万一異常があったら

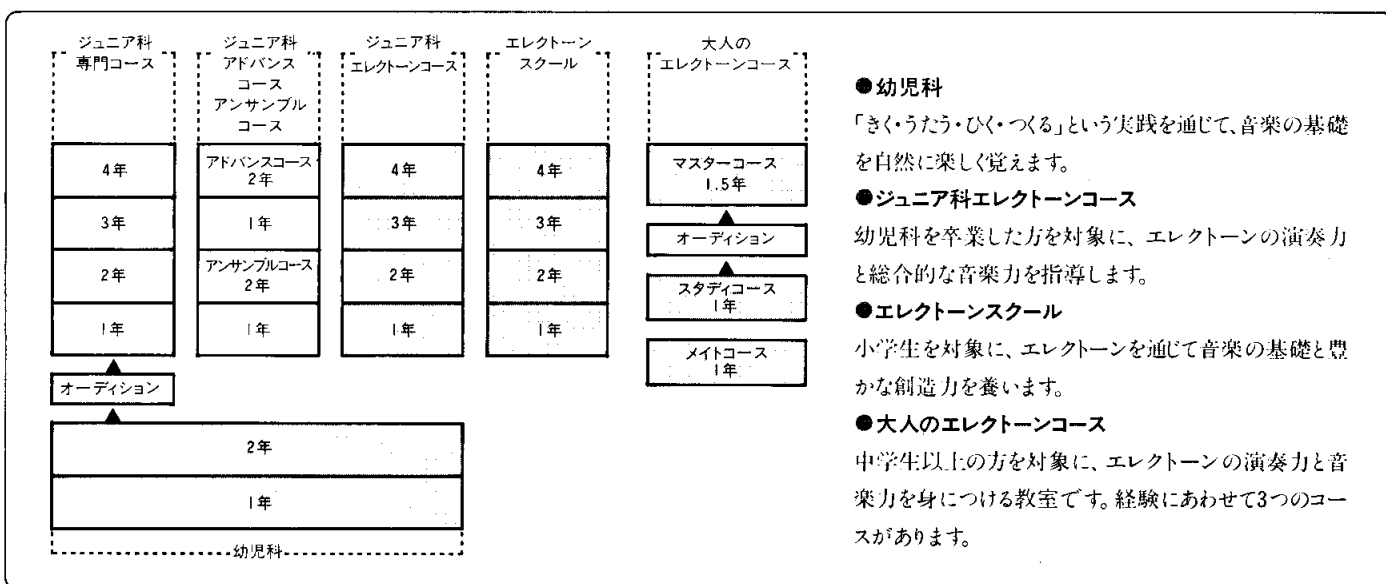
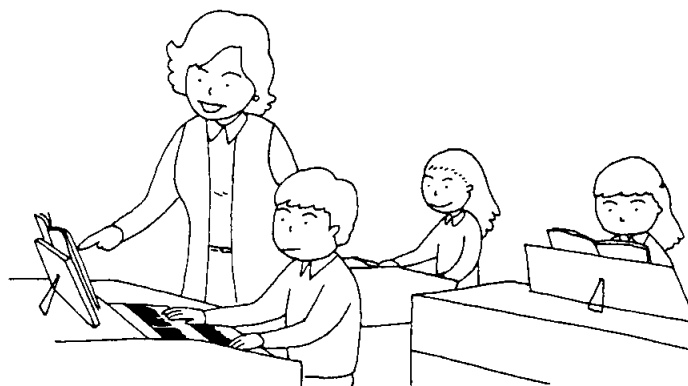
使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

エレクトーン教室のご案内

お子さまに正しい音楽教育をとお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。エレクトーン教室は、ご自宅や学校、お勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行っていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。エレクトーンをよりお楽しみいただくためにも、ぜひお近くのヤマハエレクトーン教室をご利用ください。



エレクトーンの出版物

ここに紹介した出版物以外にも、いろいろな曲集があります。くわしくはお買い上げになった販売店までお問い合わせください。

●ABC曲集

シングルフィンガープレイを中心にしたファミリー向け曲集。

●エレクトーンメソッド

エレクトーン演奏の基礎を体系的に学べる教則本です。

●ピアノからエレクトーンへ

ピアノ経験者のために編集したテキストです。

●ひきながら学ぶエレクトーン和声

エレクトーンの伴奏づけの基礎をまとめています。

●レッツプレイエレクトーン

13級～10級の人のために編集されたサブテキストです。

●メロディーパレット

初級者向けにアレンジされた曲が収められています。

●エレクトーンレパートリーシリーズ

9～6級を受験する人のためのレパートリー曲集です。

●エレクトーンヒット50シリーズ

ポケットサイズで1冊に50曲収めたメロディー譜曲集。

●エレクトーンファンファンファン

最新のヒット曲を中級者向けに編集しました。

●エレクトーンデュエット

レコードが付いたユニークな曲集です。

●ラブリーコレクション

ジャンル別に選曲した9～6級の人のための曲集。

●エレクトーン名曲アルバム

各グレード別に編集したレパートリー曲集です。

●プレイングノートシリーズ

エレクトーンプレイヤー別にまとめたアレンジ曲集。

●エレクトーンクラシックシリーズ

クラシックの名曲をエレクトーン用にアレンジしました。

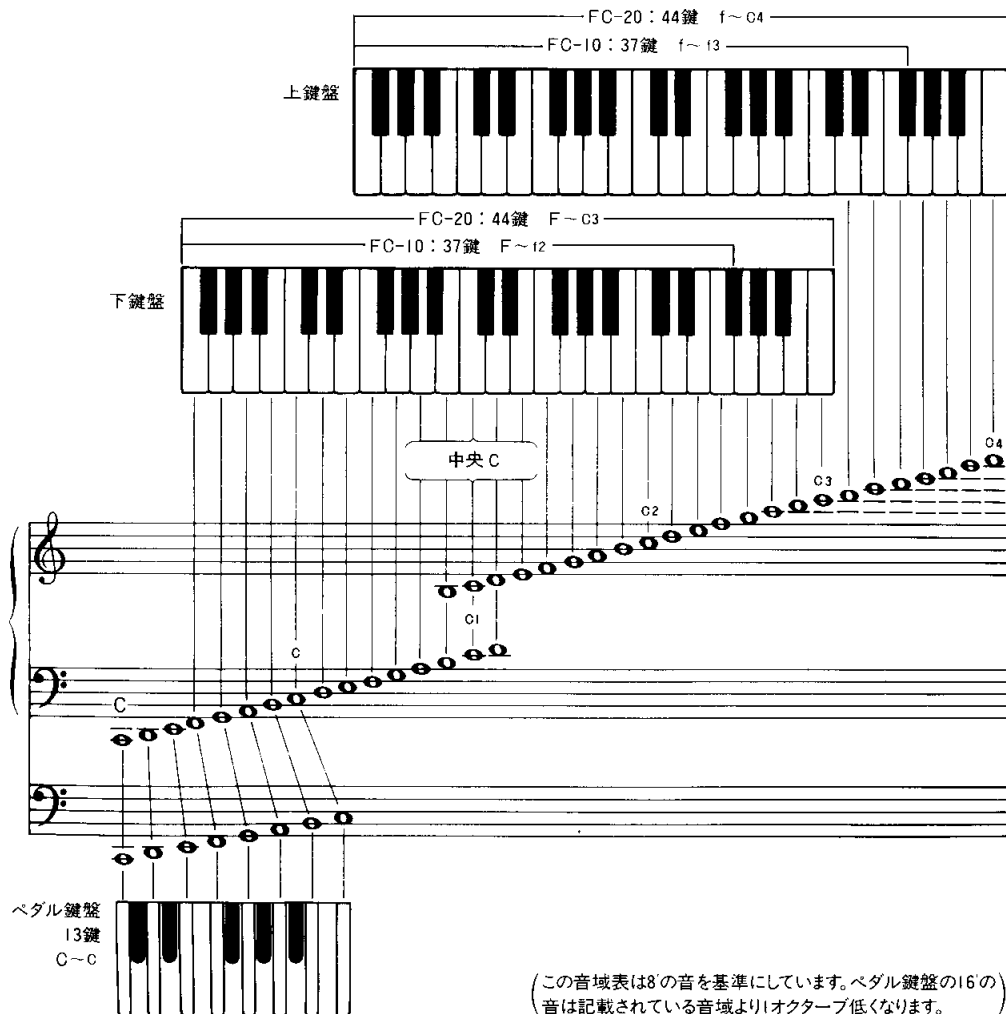
仕様と音域表

仕様

(青色の部分はFC-20のみの仕様です)

鍵盤	FC-20 FC-10	上鍵盤: 44鍵f~c4 (3 $\frac{1}{2}$ オクターブ) 下鍵盤: 44鍵F~c3 (3 $\frac{1}{2}$ オクターブ) ペダル 鍵盤: 13鍵C~c(1オクターブ) 上鍵盤: 37鍵f~fs (3オクターブ) 下鍵盤: 37鍵F~f2 (3オクターブ) ペダル 鍵盤: 13鍵C~c(1オクターブ)
上鍵盤の音色	コンビネーション/オーケストラ スペシャルプリセット カスタムボイス	コンビネーション1・2・3・4・5、ストリングス、プラス、リード、コントロール:ポリューム ピアノ、ハープシコード、ピブラフィン、ギター、コントロール:ポリューム (FC-10はコンビネーション/オーケストラと共用) フルード、サクソフォン、トランペット、トロンボーン、コントロール:ポリューム
下鍵盤の音色	コンビネーション オーケストラ	コンビネーション1・2、コントロール:ポリューム ストリングス(A.B.C.ギター)、プラス(A.B.C.ピアノ)、コントロール:ポリューム
ペダル鍵盤の音色		バス1・2、コントラバス、エレクトリックベース、コントロール:ポリューム
アンサンブル		アップパーコンビネーション/オーケストラ、アップパースペシャルプリセット、アップパーカスタムボイス、カスタムトウロー
エフェクト・コントロール	ピブラート サステイン マニュアルバランス	ディレイ、デフス アッパー(スイッチ)、アッパー(コントロール)、ペダル(コントロール)
オートリズム	リズムパターン コントロール オートバリエーション	マーチ、ワルツ、スイング、スローロック、ジャズロック、ディスコ、タンゴ、ボサノバ、ルンバ、マンボ、サンバ、16ビート シンクろスタート、スタート、テンポ、ポリューム、テンポランプ、リズムストップ(フットスイッチ) オン(4バー)、8バー
オートベース/コード		ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.、コンスタント、メモリー
オートアルペジオ		パターン:1・2・3・4、ボイス:ボイス1・2、コントロール:サステイン、ポリューム
メインコントロール		マスターポリューム、エクスプレッションペダル、ニューレバー、フットスイッチ、パワースイッチ、パイロットランプ
付属端子		ヘッドホン、AUX.OUT、AUX.IN、EXP.IN
アンプ		30W
スピーカー		30cm・5cm
定格電圧・消費電力・周波数		定格電圧100V、定格消費電力35W、定格周波数50/60Hz
寸法・重量	FC-20本体 椅子 FC-10本体 椅子	間口114.4cm、奥行55.5cm、高さ92.8cm(譜面板を立てたとき107.6cm)、重量55.5kg 間口 59.7cm、奥行29.7cm、高さ55.5cm、重量6.5kg 間口 96.8cm、奥行53.6cm、高さ85.7cm(譜面板を立てたとき100.8cm)、重量48kg 間口 59.7cm、奥行29.7cm、高さ50.5cm、重量6.3kg
外装		アメリカンウォルナット・メラミンフィニッシュ

音域表



(この音域表は8の音を基準にしています。ペダル鍵盤の16の音は記載されている音域より1オクターブ低くなります。)

故障とお考えになる前に

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になるときは、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、カスタムボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびカスタムボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。
上・下鍵盤で同時に8音以上おさえると、でない音がある。	演奏上、設計上の理由から、上・下鍵盤では、それぞれ同時に7音までしか発音しないようになっています。同時に8音以上おさえた場合は、先におさえた7音が優先されます。
上鍵盤の音色を選んで、音量をセットしても、選んだ音色がでてこない。(FC-20)	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。FC-20の上鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色のボタンを入れてください。(7ページ参照)

現 象	原 因 と 処 置
カスタムトゥーローのボタンを入れても、カスタムボイスが下鍵盤に移らない。(FC-20)	カスタムボイスを下鍵盤からだしたいときは、アンサンブルのアップパーカスタムとカスタムトゥーローのボタンを2つともONにしてください。(7ページ参照)
オートリズムのボタンを2つ一緒にセットしても、1つのリズムしかでてこない。	リズムを組み合わせるときは、上段同士または下段同士のボタンをセットしてください。上、下のリズムは組み合わせられません。
オートバリエーションの8バーのボタンを入れてもリズムが変化しない。(FC-20)	8小節目ごとにリズムパターンを変化させたいときは、オン(4バー)と8バーのボタンを2つともONにしてください。(13ページ参照)
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音がでるようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音ができます。
シングルフィンガーコードを使っているとき、カスタムボイスの音色が下鍵盤からでてこない。(FC-20)	シングルフィンガーコードを使っているときは、カスタムボイスの音色が下鍵盤からはでないようになっています。
下鍵盤の音が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードのメモリーのボタンを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、コンスタントとメモリーのボタンを一緒に入れたときも下鍵盤の音が鳴り続けます。(16ページ参照)
オートベース/コードを使っても下鍵盤のオーケストラがギターやピアノの音色にならない。オートアルペジオ(FC-20)をセットしてもアルペジオがでてこない。	オートリズムがスタートしていないためです。オートベース/コードを使っているとき、ギターまたはピアノの音色で伴奏したい場合は、必ずオートリズムを一緒に使ってください。オートアルペジオもリズムに連動して働きますから、必ずオートリズムをスタートさせてください。(14、18ページ参照)

サービスと保証について

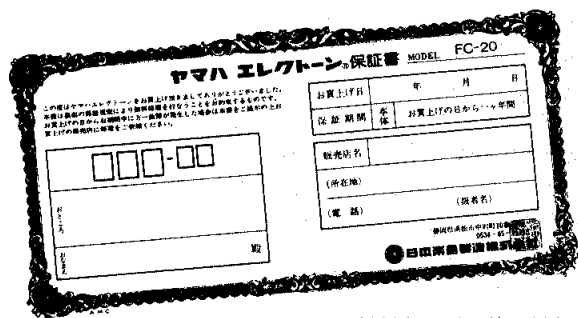
保証

エレクトーンのご購入は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種別の判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1ヵ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。

(24～25ページの「故障とお考えになる前に」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音が出る ●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。

症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。

3. お店にサービスをご依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔お客様ご相談窓口〕

東京電音サービスセンター

☎(044)434-3100

〒211 川崎市中原区木月1184

新潟電音サービスステーション

☎(0252)43-4321

〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F

大阪電音サービスセンター

☎(06)877-5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878)51-7777 (0878)22-3045

〒760 高松市丸龜町8-7 高松店內

名古屋電音サービスセンター

☎(052)652-2230

〒454名古屋市中川区玉川町2-1-2日本楽器名古屋流通センター

九州電音サービスセンター

☎(092)472-2134

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

広島電音サービスステーション

☎(082)874-3787

〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3

北海道電音サービスセンター

☎(011)781-3621

〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(0222)96-0249

〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

浜松電音サービスステーション

☎(0534)56-9211

〒432 浜松市東伊場2-13-12

〔お預り修理窓口〕

東京電音サービスデポ

☎(044)434-3100

〒211 川崎市中原区木月1184

大阪電音サービスデポ

☎(06)877-5262

〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

名古屋電音サービスデポ

☎(052)652-2228

〒454名古屋市中川区玉川町2-1-2日本楽器名古屋流通センター

九州電音サービスデポ

☎(092)472-2134

〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスデポ

☎(011)781-3621

〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスデポ

☎(0222)96-0249

〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

〔本 社〕

営業技術課 電音サービスセンター

☎(0534)65-1111

〒430 浜松市中沢町10-1

エレクトーン豆知識

●アッパー

「上」という意味です。エレクトーンでは主に上鍵盤関係のことをさします。

●アンサンブル(7ページ)

上鍵盤の音色グループのスイッチで、2つ以上のボタンを入れて音色を組み合わせることができます。また、カスタムボイスを下鍵盤で使うときにおすボタンもあります。(FC-20のみ)

●EXP.IN(20ページ)

シンセサイザーやリズムボックスなどを接続する端子です。

●エクスプレッションペダル(3ページ)

演奏しながら音量をコントロールし、音に強弱の表情をつけるペダルです。

●ABC

エレクトーンでは、オートベース/コード(Auto Bass Chord)のことを頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●エフェクト

ビブラートやサステインなどの「効果」のことです。

●AUX.IN(20ページ)

レコードやテープの音をエレクトーンからだしたい時、ステレオなどを接続する端子です。

●AUX.OUT(20ページ)

テープに録音したり、外部スピーカーから音をだしたい時に接続する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ(4、8ページ)

コンビネーション/オーケストラの音色グループのうち、ストリングス、ブラスなどオーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートアルペジオ(18ページ)

アルペジオとは和音を分散して連続的に奏でる奏法のこと。エレクトーンでは、リズムに連動したアルペジオが自動的に得られます。

(FC-20のみ)

●オートバリエーション(13ページ)

選んだリズムパターンを、一定の小節ごとに変化させる機能です。(FC-20のみ)

●オートベース/コード(14ページ)

下鍵盤の和音(コード)伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏がリズムに合わせて自動的に演奏される機能です。

●オートリズム(12ページ)

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやシンクロナイズドなどのリズムを自動的に流す機能です。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互にだす基本的なベース奏法のこと。オートベース/コードを使えば自動的に得られます。

●音色(おんしょく)

ねいろのことです。エレクトーンのボタンには、ストリングス、ピアノ、フルートなどの音色名がついていますが、これは表示されている楽器の音をイメージしてつくられた“音色”です。

●音程

音と音との間隔のこと。同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音名

音の高さと呼びあわす名前のことです。日本ではハニホヘトイロ、イタリアではドレミファソラシ、アメリカやイギリスではCDEFGABを使います。

●音量

音の強さ、大きさのことです。エレクトーンでは、ボリュームのレバーで各音色グループの音量をコントロールすることができます。

●カスタムA.B.C.(17ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。これを使うと、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏が切りはなされます。

●カスタムボイス(6ページ)

カスタムというのは「注文してつくった」という意味です。いろいろな楽器音が単音で得られる音色グループです。

●減衰音

鍵盤をおさえ続けても、途中で自然に消えていく音です。スペシャルプリセットの音色は減衰音です。

●コードネーム(15ページ)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音です。

●根音(15ページ)

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならばドが根音です。シングルフィンガーコードで伴奏をつける時は、この根音をおさえます。

●コンスタント(16ページ)

オートベース/コードとオートリズムの連動をキャンセルするボタンです。

●コンビネーション(4、8ページ)

「組み合わせ」という意味で、エレクトーンでは、あらかじめ組み合わせられたオルガン系の音色のことをいいます。

●サステイン(11ページ)

鍵盤から指や足をはなしたあと音に余韻をつけ、自然に消えていくようにする効果です。

●持続音

鍵盤をおさえ続けている間、ずっと持続してでてくる音で、エレクトーンのはとんどの音色はこの持続音です。

●ジャズロック(12ページ)

ロックの基本的なリズムです。

●16ビート(12ページ)

16分音符を基本としたリズムで、ロックやフュージョン、ジャズなどの音楽で使います。

●シングルフィンガーコード(14ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。下鍵盤で和音の根音をおさえることで、和音とベース音が自動伴奏されます。

●シンクロスタート(13ページ)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。シンクロスタートを使うと、伴奏と同時にリズムをスタートさせることができます。

●スイング(12ページ)

ジャズの標準的なリズムです。

●スタッカート(・)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。

●ストリングス(4、8ページ)

弦楽器のこと。オーケストラ音色に用意されています。

●スペシャルプリセット(5ページ)

ピアノやハープシコードの音などの減衰音がプリセットされている音色グループです。

●スラー(—)

音程のちがう2つ以上の音符をレガート(なめらかに)演奏することを指示する記号です。

●セブンスコード(15ページ)

三和音に7度の音を加えた和音です。シングルフィンガーコードでは、和音の根音とそれより左側の白鍵をおさえることで得られます。

●タイ(ー)

同じ音程の音符を指をはなさずに続けて演奏するように指示する記号です。

●ダ・カーポ(D.C.)

曲の最初にもどることを指示する記号です。

●ダルセーニョ(D.S.)

※記号までもどることを指示する記号です。

●中央C

鍵盤のほぼ中央にある音で、高音部譜表の下第一線上の音になります。

●ディスコ(12ページ)

ディスコダンス用のリズムで、シンプルなビートとわかりやすいアクセントが特徴です。

●ディレイビブラート(10ページ)

鍵盤をおさえてから、少しおくれてビブラートがかかる効果です。

●デプス(10ページ)

「深さ」という意味で、ビブラートでは音のふるえ方の深さをコントロールすることができます。

●テンポランプ(13ページ)

オートリズムがスタートしている時、小節の1拍目ごとに点灯するランプです。

●テンポ(13ページ)

速度のことで、オートリズムではリズムの速さをテンポのつまみでコントロールします。

●ローレバー(11ページ)

エレクトーンの棚板下にあるレバーで、右ひざを右に動かして操作します。演奏中に必要なところでサステインをかけることができます。

●ノーマル(17ページ)

「普通の」という意味で、オートベース/コードの自動伴奏をキャンセルするボタンです。

●ハーブコード(5ページ)

チェンバロとも呼ばれる16~18世紀ごろの鍵盤楽器で、スペシャルプリセット音色のひとつです。

●ビブラート(10ページ)

音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせる効果です。

●フィンガードコード(17ページ)

オートベース/コードのボタンのひとつです。下鍵盤で和音をおさえると、和音伴奏とともにベース伴奏が自動的に得られます。

●フットスイッチ(12ページ)

エクスプレッションペダルの左横にあるスイッチで、左におすとリズムがストップします。(FC-20のみ)

●プラス(4, 8ページ)

金管楽器のことで、オーケストラ音色に用意されています。

●ペダル(9ページ)

ペダル鍵盤の音色で、いろいろなベース音が選べます。

●ヘッドホンジャック(20ページ)

ヘッドホンを接続する端子です。モノラル、ステレオのどちらでも接続できます。

●ボイス

「声」という意味ですが、エレクトーンでは音色と同じような意味に使います。

●マイナーコード(15ページ)

短調の和音で、Am、Emのように表わします。シングルフィンガーコードでは、和音の根音とそれより左側の黒鍵をおさえることで得られます。

●マスターボリューム(3ページ)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マニュアル

「手」のことで、エレクトーンでは上・下鍵盤のことをいいます。

●マニュアルバランス(10ページ)

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをコントロールします。

●メジャーコード(15ページ)

長調の和音のことで、C、Gのように表わします。シングルフィンガーコードでは、和音の根音をひとつおさえるだけでメジャーコードが得られます。

●メモリー(16ページ)

下鍵盤をはなしたあとも、伴奏が自動的に演奏される機能で、オートリズムに連動して働きます。

●リード(4ページ)

木管楽器のことで、オーケストラ音色に用意されています。(FC-20のみ)

●臨時記号(#、b、k)

音の高さを一時的に変えることを指示する記号です。半音あげる#(シャープ)、半音さげるb(フラット)、もとの高さにもどすk(ナチュラル)などがあります。

●レガート(legato)

なめらかに演奏するように指示する記号です。

●レジストレーション

演奏にあたって、その曲想に合った音づりをするためにエレクトーンの音色や効果などをセットすることです。

●ロー

「下」という意味です。エレクトーンでは主に下鍵盤関係のことをさします。

●和音

音程のちがう音が2つ以上同時に響いたものがあります。ドミソなどの三和音が基本になりますが、さまざまな種類があります。

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/ノパールビル
TEL. 03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心齋橋プラザビル東館
TEL. 06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6113

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL. 0222(22)6141

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 082(244)3744

浜松支店 / 〒430 浜松市鍛冶町321-6
TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。

 **YAMAHA**
日本楽器製造株式会社